

遠隔地間における円滑な教育活動の実践について
～F K Sテレビ会議システムの普及をめざして～

福島県立平商業高等学校 教諭 阿部 憲二

1 研究の趣旨

テレビ会議システムの利用により、同じ場所にいるような感覚で会議をすることができる。そのため、企業ではテレビ会議システムにより移動コストを削減し、コミュニケーションを活性化させている。

教育センターでは、平成19年度から遠隔地間の教員研修について研究し、研修支援に効果的であったとの報告がなされている。しかし、テレビ会議システム自体の認知度が低いこと、あるいは利用するまでの準備が煩雑なイメージがあることなどの要因から、テレビ会議システムの利用が広まっていない。

平成23年3月の東日本大震災と原発事故を契機として県内各地にサテライト校が開設された。生徒は不慣れな環境の中で学習する状況にあるとともに、教員は県内各地に分散されたサテライト校へ移動して授業を行っている状況にある。

本研究は、F K Sで再構築されたテレビ会議システムのサテライト校での利用を通して、教育のどのような場面で活用できるのかを検証し、広く利用してもらうことを目的に行った。

2 研究の概要

(1) 研究目標

サテライト校においてテレビ会議システムを利用した実践を行い、教育現場のどのような場面で有効利用できるかを検証する。また、検証結果をもとにテレビ会議システムのマニュアル作成に寄与し、利用する際の留意点をまとめ、活用例を提案することで本システムの利用促進をめざす。

(2) 研究内容

- ① 授業での活用についての検証
 - ・ サテライト校間での授業における活用
 - ・ 外部講師としての授業における活用
 - ・ アンケートの実施
- ② 校務での活用についての検証
 - ・ 職員会議での活用

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① システム内の機能により、Web ページなどのリアルタイムデータを扱うことができる。
- ② 授業で利用する際は、普段の教室での授業とは環境が異なるため、活用して感じたことやお絵かき共有機能の利用例をマニュアルに追加した。
- ③ 離れている教職員が1か所に集まることなく職員会議を実施することができた。
- ④ 授業前後の生徒の姿やアンケート調査から、離ればなれの友人同士を結び付けることができた。

(2) 課題

- ① 会議で利用する際は、別会場の雰囲気を確認するための全体用カメラが必要である。
- ② 教育現場での活用は、準備時間の確保が必要であるため、教員でも児童生徒でも使いたい時にいつでも利用できる場所への常設が必要である。
- ③ 授業で利用する際は、機器等の準備など取りかかりにくい面もあるため、まずは研修や打合せなど教員同士での利用を行い、操作等に慣れる必要がある。